

1. 意見

旧常呂橋の河口地域の左岸(通り地域)も
右岸(弁天地域)と同じように十分な平坦な
河川敷地の確保と安全ななだらかな堤防
整備を求めます。

平成 20 年 4 月 21 日

山田久夫

安心安全な常呂川の河口地域の整備を求めて

私は、北見市常呂町の旧常呂橋の左岸(本通り地域)の河口地域に祖父母から数えて三代にわたり 90 年以上生活している市民です。

旧常呂橋の河口地域の左岸(本通り地域)も右岸(弁天地域)と同じように十分広い平坦な河川敷地の確保と安全ななだらかな堤防整備を求めます。

確かに常呂川は河口地域直前までの下流地域の堤防整備は堤間の河川敷地も十分な広さ(250m から 350m)が確保されて整備は進んでいると感じております。

しかし、昭和 39 年に廃止された旧常呂橋付近の河口地域の左岸(本通り地域)については右岸(弁天地域)と同じような平坦な河川敷地の確保や堤防整備がほとんど進んでいないと感じております。

昭和 39 年に廃止された旧常呂橋付近の整備については、右岸地域の整備は常呂橋撤去以前から平坦な河川敷地の確保と堤防が整備が進められましたが、左岸(本通り地域)は常呂橋の撤去後も整備はされず橋が撤去されたままのコンクリートむき出しのままの状態が未だに続いております。

具体的な状況は旧常呂橋の付近には平坦な河川敷地がほとんど無い状態でステンレスの柵付近から川をのぞくと垂直に 5m 以上落ち込むように感じる地形になっております。

小さな子供を持つ親としては非常に危険な地域になっております。

さらに旧常呂橋から 50m から 100m 程海側へ向かう左岸地域は、実際の地形は示されている図面とは違い、私有地の端が直接常呂川に落ち込むような地形になっているところもあります。

さらにそこは私有地ですのでステンレスの柵も取り付けられておりませんのでいつでも川に落ちる可能性をもった地形となっております。子供や老人にとっては大変危険な地域となっております。

今回示されている増水時の対策としての常呂川河口付近のU字部分に直線的な水路を造る計画の実施については、昭和39年に廃止された常呂橋付近の左岸を安全な状態に整備した後に実施すべきであると感じております。

左岸(本通り地域)の整備は右岸(弁天地域)の整備と比較すると昭和39年以来全く手をつけられていないと言わなければなりません。

今回の工事により増水時に今までよりも常呂川の直接的な流れが押し寄せる危険性が増す、旧常呂橋の河口地域の左岸(本通り地域)の住民の安心安全を考えて、平成8年に示された河口地域の整備計画のように旧常呂橋付近の河口部の左岸(本通り)地域の住民が安心できる様な河道との間に平坦な河川敷地を十分確保した整備を実施してもらいたいと考えております。

最後に重ねてお願いしますが、今回計画されている河口付近の増水時対策としてのU字部分の直線的水路の工事に先行して、旧常呂橋付近の左岸整備を実施してもらいたいと考えております。









